

11. 当院における意識障害に対するの OHP 治療成績

戸部善継 平野勝介 太田助十郎
矢部雅哉 鈴樹正大

(秋田大学医学部附属病院麻酔科)

【目的】当院麻酔科で、OHP 治療装置「中村鉄工所製」導入以来、種々の疾患に対して治療を行ってきた。今回、当科で OHP 治療を行った意識障害に対する治療成績について報告する。

【症例および方法】対象症例は、昭和53年11月から平成2年12月までの12年1カ月間に治療を行った意識障害患者59例である。

原因および症例数は、CO 中毒31症例、術後意識障害11症例、溺水5症例、薬物によるもの4症例、気道閉塞2症例、その他各1例で6症例であった。男性40例、女性19例、年齢8カ月～79歳であった。

OHP 治療は、2 ATA 60分、全経過80分で行い、総治療回数478回、1症例平均8.1回であり、最高49回、最低1回であった。

尚、当院 OHP 装置は第一種治療装置であり、呼吸および循環の安定を確認後、治療を開始した。また、薬物による1症例に対しては直接血液灌流(DHP)を実施した。

【結果】治療成績は、全快27例(45.8%)、意識清明で軽度麻痺有り8例(13.8%)、また EEG に徐波混入4例(6.8%)、軽度意識障害2例(3.4%)、重度意識障害6例(10%)、不変10例(17%)、死亡2例(3.4%)であった。

3・3・9度で(300)13例、(200)8例、(100)4例、(30)4例、(20)2例、(10)11例、(3)4例、(2)2例、(1)8例、意識清明3例であり、重度意識障害以上の予後不良症例は18症例うち15例は心肺蘇生後で3・3・9度(200)以上の症例であった。

尚、低酸素症が原因とみられる肝機能障害も多くの症例に認められた。

12. 眼科領域における高気圧酸素治療の 看護

橋本正美 飯田君代 大島美由貴
星野浩明

(臨床眼科研究所高気圧酸素治療室)

臨床眼科研究所では、平成2年4月に高気圧酸素治療装置を導入し、虚血性眼疾患を初めとして糖尿病性網膜症、眼筋マヒなどに対し治療を行っている。眼科領域においても高気圧酸素治療法は将来を嘱望された治療法といえる。治療を開始するにあたって私たちは、患者に対し治療についての説明と同意を得るために工夫する必要が生じた。そして患者の安全を守ることを最優先課題とし、制限された環境で出来るだけ安楽に治療を受けられるよう援助することが大切であるという、看護の基本に立ち戻った。今回、治療を受けた患者に対し、アンケートをとり具体的な不安や、治療に対する意識の程度を知ることができた。約1年間に私たちが看護および治療を通して得た51名の症例に対し安全管理、精神的安楽を中心に行った看護の現状を報告する。